

## 1. 研究主題・副主題

# 学び合って のびゆく子の育成 —相手意識をもち、主体的に表現する授業を通して—

## 2. 主題・副題設定の理由

「学び合ってのびゆく子の育成」を研究主題に、算数科を中心として2年間、研究を進めてきた。本校の子どもたちが、活動的でエネルギーにあふれている一方で、粘り強く取り組む姿勢や、相手の立場を考えて、よりよい行動をすることが苦手だという実態を改善したいと願ったためである。

昨年度は、副主題を「根拠を明確にし、主体的に表現する子をめざして」とし取り組んだことで、児童の主体性と表現力が高まってきた。また、算数科を中心に授業研究を進めてきたことにより、「数学的な見方・考え方」を働かせた数学的活動の充実に向けた手立てについて共通理解することができた。しかし、児童全体としての「主体性の弱さ」「表現の質」においてはまだまだ課題が見られ、表現する意欲は芽生えてきたが、相手を意識した話し方や聞き方が十分ではなかったという点で課題が見られた。

そこで今年度は、本校のめざす学校像「学ぶ楽しさを味わう学校」を受け、研究副主題を「相手意識をもち、主体的に表現する授業を通して」とした。まずは、全ての子どもたちが既習や生活経験を生かして、教科の「見方・考え方」を働かせながら、自分の考えをもつこと、「伝えたい」（表現したい）思いをもてることが大切だと考えた。相手に自分の考えを伝えたい思いをもつことは、相手意識をもつことにもつながる。学び合いが深まる授業を日々重ねていくことで「学ぶ楽しさを味わう」ことができるのではないかと考えた。

今年度も「学び合ってのびゆく子」の育成を目指し、研究を進めていく。特に、児童全員が「数学的な見方・考え方」を働かせ「自分の考えをもつ」場面に重点を置き、今年度は実践を重ねていきたい。

## 3. 研究の仮説と重点

本校では、以下の仮説のもと研究を進めていく。

### 研究仮説

算数科において、既習や生活経験をもとに「数学的な見方・考え方」を働かせて、自分の考え（根拠）をもてるようになること、そしてその考える「すべ」をもつことで、相手意識をもち、主体的に表現する力のある子に迫れるのではないかと考えた。

「相手意識をもち、主体的に表現」したい思いをもつためには、児童が自らの生活経験や既習経験を生かして問題解決を図り、教科の「見方・考え方」を働かせて考えをもてることが、自ら進んで関わろうとする主体性につながっていく。そこで、単元の系統性や児童の既習定着の実態把握を大切に、学ぶことに対して主体的に向かう力を引き出していきたい。

**重点①**「**数学的な見方・考え方を働かせる手立て**」を設定する。

この**重点1**の具体的な手立てとして

- ①自分の考えをもてるための工夫（既習・領域の系統、生活経験）
- ②単元においてつけてほしい「数学的な見方・考え方」の教師の見とり

に取り組む。児童は、学ぶ単元の系統性や既習を意識しながら「数学的な見方・考え方」を働かせ、自力解決を行い、自らの考えを書く力をつける。

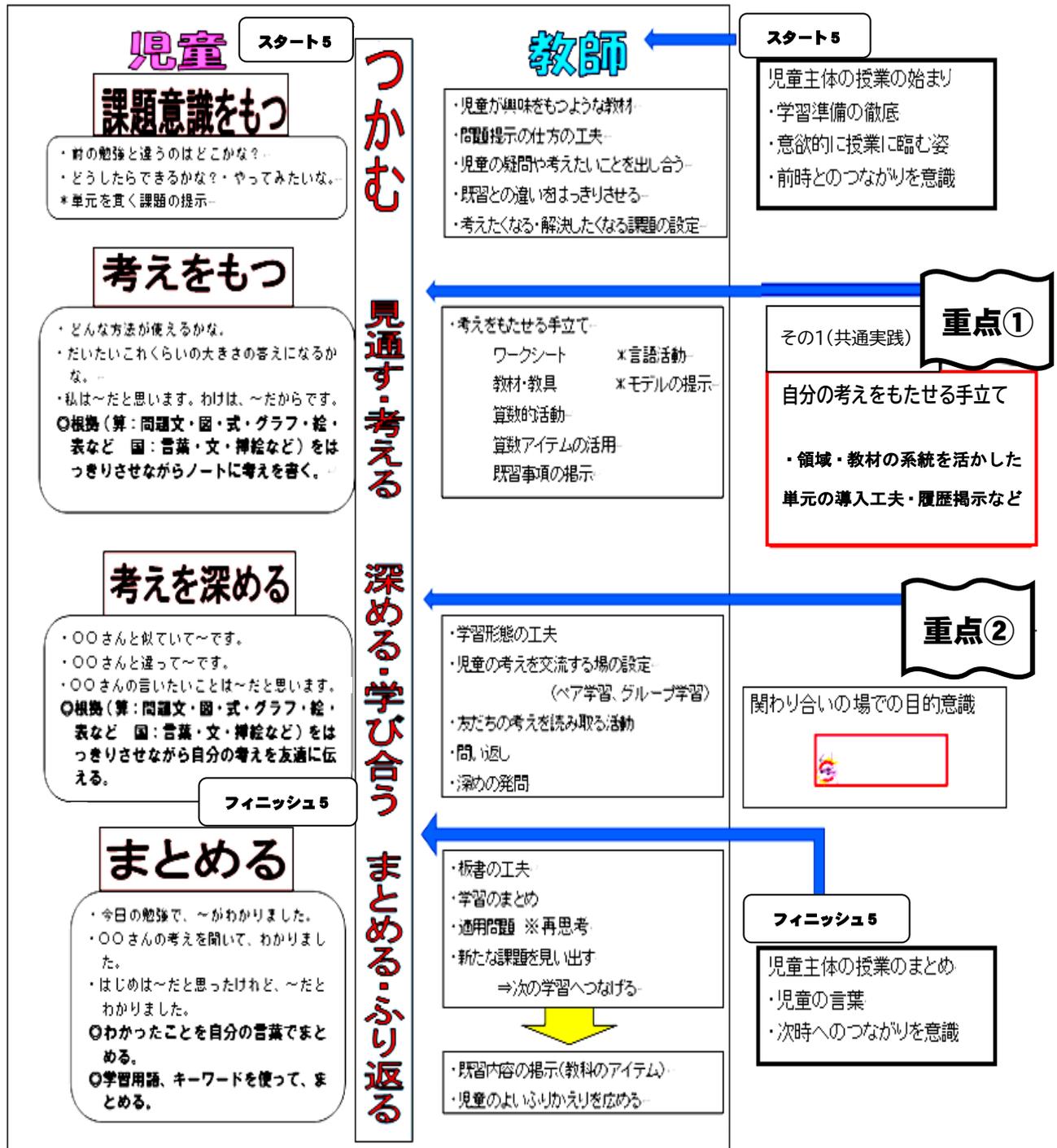
**重点2** 「関わり合って表現するための手立て」を設定する。

この**重点2**の具体的な手立てとして

- ①目的意識をもたせた関わり合いの場の設定
- ②学び合うための表現の手立て

に取り組む。目的意識を児童が意識し、関わり合うことでより学び合いが深まる。また、「つたえる」「ひろげる」「つなげる」言葉を提示しておくことで、積極的に関わり合おうという意欲が高まると考えられる。

**4. 授業の基本スタイル(鶴ヶ丘スタイル)**



## 5. 研究の進め方

### (1) 研究組織



#### ・ 研究推進委員会

研究の方向・内容・進め方・研究構想図などの原案を作り，全体研究会および低・高部会に提げていく。

#### ・ 全体研究会

研究の方向・内容・進め方や研究授業について協議し，学校研究についての共通理解を図る。

#### ・ 低・高部会

授業を中心に実践研究を図る。

#### ・ 学力向上部会

学力向上を含め，共通実践など校内の学習指導全般について協議し，提案する。

各種調査（全国学力調査・県学力調査など）を分析し，対応を検討する。

### (2) 研究方法

- ① 主題・副題を受けて，全体研究会で研究の方向性を確認する。
- ② 算数科を中心に研究を進める。
- ③ 全員1回以上，研究授業を行い，その際に指導主事等の要請を行う。
- ④ 低・高学年各1回（全体で2回 前期・後期）の全体研究授業を設定し，共通理解を深めながら研究を進める。全体研以外は，部会研とする。
- ⑤ 重点についての協議をもとに，研究の方向性について共通理解を図る。
- ⑥ 先進校視察の報告や講師を招聘した学習会を行う。

## 6. 研究推進年間計画

4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究主題・副題，研究の基本方針，研究組織，研究構想図等についての共通理解</li> <li>・ 児童の実態把握</li> <li>・ 研究の重点の設定，重点の具体化に向けた取り組み</li> <li>・ 低・高部会：研究授業計画，共通実践の確認</li> <li>・ 重点を意識した授業の基本スタイルの作成</li> <li>・ 指導案の形式について検討</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力向上プラン・学力向上ロードマップの作成</li> <li>・ 提案授業（全体研）</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学期の振り返り</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体研究会</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究の方向 再確認</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体研究授業</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2学期の振り返り</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本年度の研究のまとめと研究集録の作成</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本年度の振り返り 来年度の方向づけ 学習アンケートの実施</li> </ul>